

商学部生が2つのグランプリ

ビジネスコンテストで優勝、というニュースが2つ続けて飛びこんできた。別々に開かれた大会での快挙である。ともに商学部2年生の2人を紹介しよう。

中大からまたひとり、ベ
ンチャー企業家のたまごが
生まれた。商学部経営学科
2年、太田英基さん。

スーツでさっそう
と現れた。まるで
「営業の人」。とて
も2年生にはみえ
ない。

SpringWater 主催のビジ
ネスコンテスト「TRIG
GER 2005」で優

にもかかわらず、ざつと3
00人を数え、立ち見もで
たくらい。
受賞したのは、同じ中大
商3の永澤雄さんと慶応大
生、そして太田さんの計3
人による共同プランである。
称して「タダコピ」(事
業名)。一言でいうと、「普
通の聖蹟桜ヶ丘の
BAR「SOU
E
N」で出会った。ふ
たりともそこで経
営に携わった。た
だ単にバイトではなく、従
業員全員が経営を任されて
いる、珍しいBARだ。ひょ
んなことから、ふたりとも
興味のあつたビジネスの世
界へとむかった。お互い、
なんでも言い合える間柄だ
という。
太田さんの将来の夢は、
自由人だ。その手段として

「TRIGGER2005」

太田英基さん、他大生とのチームで制覇

受賞という快挙だ。コンテ

ストは10月1日、国立オリ
ンピック記念青少年総合セ
ンターで開催さ

れた。50組ほど
の大学、社会人
が参加した中で
のトップに躍り
出た。また、観
客は有料だった

客は有料だった

効果測定など相当労力を要
したという。実際に動いて

自由人だ。その手段として





た商学部2年菅

バーのようにおしやれ」。

大学では、インカレのテ

学部3年) 猪瀬智巳 商

起業家として生きたいとお

もっているそうだ。「高校

のときからなんとなく思っ

ていたが、インターンや起

業家訪問をするなかで心が

固まりました」

時間をどう使うかで、そ

の人の人生は変わってくる。

彼は言った。

「ノーアクション、ノー

チェンジ」「壁はトビラだ」

動かないことにははじま

らない。高い壁に挑んで將

来へのトビラが、いま開き

はじめた。



問い合わせなどは、

hideki0405@hotmail.com

へどうぞ。

(学生記者 白田彩乃 商

学部3年)

「King2005」商学部2連覇

藤田光佑さんチームが居酒屋「アイデア」で

「学生のためのビジネ

スコンテストKING2005」

(8月28日―9月4日)

でみごと優勝したのは、商

学部経営学科2年、藤田

光佑さんから商学部チーム。

「KING2005」は全国から

1200人の学生を選抜し7

泊8日の泊ま

り込みで初対面

によるケースメ

ソッド方式を用

いたビジネス

プランコンテス

ト。昨年優勝し

野光憲さんに続き商学部生

による2年連続優勝となる。

ケース課題は、「フアー

ストフード業界」。会社の

強みと弱み、業界のチャ

ンスや危険性を分析し、甘

い部分を、サービスを付加

することで補うもの。キー

ワードは、「安さ」と「夜

に弱い」。そこで考えたの

が「居酒屋のように安くて、

「予選プレゼンと決勝プ

レゼンがあつて、決勝のと

きのほうがレベルが高いよ

うに思われるんですけど、

実際は予選のときのほうが

大変でした」。予選プレゼ

ンでは、質疑応答のとき、

誰がどの質問に答えるかで

とまどってしまった。「グ

ループの中で作業を分担し

ていたので、財務の質問は

財務担当しか答えられない

という状況で……。予選の

プレゼンをやって、自分た

ちの不備が見えてきたんで

す」

決勝では予選での経験を

生かし、堂々たるグランプ

リ。悠々たるものである。

「結果が言われる前に、他

のグループのプレゼンを聞

いて思いましたね。勝った

な、と」

ニスサークルの副部長を務

めている。「幹部をやるこ

とで団体の中で、どうやっ

て組織を動かしていくかと

いう、本当のリーダーシッ

プを身につけるのが目的で

す」。それができて初めて、

サークルをやったことの意

味が生まれる、とも。

「自分の限界を超えてい

きたい」。ビジネスコンテ

ストが始まるときに、自分

で決めた目標だ。将来の夢

は経営者。今後の課題は？

「年の割に大人っぽいと

言われるんですよ。あんま

り考えすぎなくてもいいと

もつともっと面白いことに

どんどん取り組んでいき

たい」

彼は7月に20歳の誕生日

を迎えたばかりだ。

学部3年)